

ふるさと

第 12 号



増幅寺の吊し雛（溝の口にて：平塚征英さん）

目 次

- 第 4 回お国自慢発表会(お城の話) …… (1)
- わがふるさとの姫路城 …………… (5)
- 第 5 回お国自慢発表会(北海道) …… (9)
- 北海道道南地区の発表補足 …… (14)
- 日本民謡の粹・江差追分 …… (17)
- 加賀百万石の古都の歴史・伝統 …… (20)
- 神奈川県秘湯・中川温泉 …… (23)
- <連載> 隠岐流人秘帳(その 3) …… (24)

発行：2016 年 3 月 13 日（第 12 号）
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

2015年度第4回お国自慢発表会・懇親会

場 所：麻生市民交流館 やまゆり
日 時：平成 28 年 1 月 16 日(土)
15 時 00 分～19 時 00 分
参加人数 40 名、懇親会参加 36 名

第1部 お国自慢発表会 (15:00～17:20) 司会：宮本事務局長

1. 開会の辞

(以下、敬称略)

- ◇ 松本会長の挨拶：お城の話もあるとかで、ふるさと松江城のお話も出てくるか、楽しみにしています。
- ◇ 宮本事務局長：今日のイベントの概要の説明

2. わがふるさと姫路城：飯塚洋三さん（兵庫県姫路市出身）

- ◇ 姫路城の歴史、構造、近隣豪族との戦いの歴史、歴史上の人物等について、楽しく、映像等を使って説明して頂きました。
- ◇ ここでは、国宝指定の5城や重文指定の7城の写真を掲載します。
- ★ 姫路城やお城の楽しみ方については、別途5ページに記載しましたので、そちらをご覧ください。



① 国宝指定の5城…姫路城、松本城、犬山城、彦根城、松江城



姫路城（兵庫県）



松本城（長野県）



犬山城（愛知県）



彦根城（滋賀県）



松江城（島根県）

② 重要文化財指定の7城

弘前城、丸岡城、備中松山城、丸亀城、伊予松山城、宇和島城、高知城



弘前城 (青森県)



丸岡城 (福井県)



備中松山城 (岡山県)



←丸亀城 (香川県)



伊予松山城 (愛媛県) →



←宇和島城 (愛媛県)



高知城 (高知県) →

3. 江戸の街形成の歴史：大井敏夫さん (東京都赤坂出身)

江戸東京の成り立ち歴史、江戸城の歴史と今後について、映像を使って説明して頂きました。



① 江戸の名の由来

- ・ 最も古い伝承…浅草浅草寺の由来
- ・ 記録…吾妻鏡に治承4年(1180)頼朝上陸地点とされる。
- ・ 江…大きな河川、戸…入口、戸口に拓けた土地→江戸



② 家康入府時

- ・ 江戸の低湿地…道三堀・小名木川の掘削、河川付替え、埋立て
- ・ 海運…浅草湊、江戸湊、品川湊

③ 見附…江戸城内濠から外堀へ続く「の」の字に設置

- ・ 江戸 36 見附…実際には最大で 51 見附
- ・ 街道筋への 6 見附…東海道(芝口)、奥州・日光街道(浅草口)、中山道(筋違口)、上州道(牛込口)、甲州道(四谷口)、大山道(赤坂口)



- ④ 隅田川…古名では宮戸川、浅草川と呼ばれた。吾妻橋から下流を大川と呼んだ。
 - ・隅田川に架けられた橋…千住大橋、両国橋、新大橋、永代橋、吾妻橋

⑤ 上水道

- ・神田用水（井の頭池）、玉川上水（多摩川羽村堰）
- ・入府時は一時的に、千川上水、青山上水、三田上水、亀有上水も

⑥ 江戸八百町

- ・基本は60間四方の両側町…地形により20,30,40間もある。
- ・町の入口の公道には自身番と木戸番
- ・職人は一所に纏まって居住し、職業が町名
- ・街の治安・行政…町奉行、名主（関西では庄屋、東北では肝煎）
- ・江戸の人口…享保4年(1721) 501,394人



⑦ 風呂屋

- ・天正19年(1591)頃、伊勢の与一が銭湯風呂を開業
- ・湯屋内部は板の間(脱衣場)、流し板(洗い場)、湯船に分かれる

⑧ 遊郭

- ・庄司甚右衛門が遊郭建設を請願し元和三年(1617)認可
- ・日本橋葺屋町穂が市側に二町四方の土地…元吉原
- ・明暦2年(1656)浅草裏日本堤へ移転、大火による移転…新吉原

⑨ 時の鐘

- ・初期には場内で太鼓を打つ…府内全域には届かず
- ・寛永3年、日本橋本石町に時の鐘を設置
- ・府内の鐘…日本橋本石町、浅草浅草寺、上野寛永寺、本所横川入江町、芝切通、市ヶ谷八幡、新宿天龍寺、目黒不動、赤坂成満寺



4. 事務局から：今後の予定の連絡

新しく入会された秋葉晃介さん、我妻昌幸さん、原信子さんの紹介

- ・秋葉さん：芋煮会発祥の地、山形でも元祖芋煮会の地のご出身（編集者平塚の大学ワンドル部の同期生です）
- ・我妻さん：仙台の出身で、今までの人生の歴史をご披露
- ・原さん：「あ・そうかい」の所属で、やまゆりスタッフ



第2部 懇親会 (17:30~19:00)

今回も沢山の方々から、有難い差入れを頂きました。

日本酒（浦霞、宗玄、雪中梅）、守口漬、チーズ、稲荷寿司とお握り、大根
…竹市・鈴木・宮本・宮本・吉岡・五十嵐・田中(幹)の皆さん

記録漏れがありましたらご容赦のほどを。

1. 何時も懇親会の裏方として買出しなどにご尽力を頂いている本間さんの音頭で乾杯
2. 鈴木さん：交流会発足時に大変お世話になった吉森さんを偲んで、お宅へ2月4日にお参りに行きたい、行かれる方を募ります。



3. 平塚さん：会報への投稿のお願い

4. 日下部さん：東京ドームでのふるさと祭りに会員の方5人で参加の話

5. 秋葉さん：2月13日、14日に新ゆりイオンシネマで日本映画大学の学生制作による映画会があるので、ご希望の方の参加を募集、無料



6. 楽しい懇親会の最後は、大阪出身の木村ひろみさん他大阪グループによる、大阪流の締めを行い、お開きとしました。

- ・ 打ちま じょ チョン チョン
- ・ もーひとつ エ チョン チョン
- ・ 祝うて 三度 チョ チョン の チョン

◇ お疲れ様でした。



わがふるさと姫路城の紹介

飯塚 洋三

1. はじめに

世界各地から訪れる観光客を虜にする姫路城。

昭和26年(1951)に国宝に指定され、平成5年(1993)には奈良の法隆寺と共に、日本で初の世界文化遺産となりました。

将軍・徳川家康の娘婿、池田輝政が8年の歳月をかけて慶長14年(1609)に完成させた現代の城、以来一度も戦火にまみえることなく内曲輪の城郭がほぼ完全な形で残っています。連立式天守の複雑な構成美は希少な文化遺産であり、また、城を舞台に語り継がれる人物や物語も数多く、人々を魅了しています。

これを機に、多くの皆様が姫路城に関心を持っていただき、「世界の宝」を保存・伝承するきっかけになればと願っています。

2. 姫路城が世界文化遺産に登録された理由

姫路城は今から22年前にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」において、わが国初の世界文化遺産として法隆寺地域の仏教建造物とともに登録されました。

世界文化遺産の登録基準としては6つの条件がありますが、姫路城は、

- ・ 白鷺城とも言われ、その美的完成度はわが国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類を見ない優れたものである。
- ・ 現存する最大の城郭建築であり、その壮麗な意匠は、17世紀初頭の時代の特徴をよくあらわしている。
- ・ 天守群を中心に、櫓、門、塀等の建築物、石垣、濠等の土木工作物が良好に保存されている。

の3点を満たすとして、平成5年(1993)12月10日にコロンビアで

開かれた世界遺産委員会で登録が決定。同年12月11日に世界文化遺産に登録され、その登録証のコピーが姫路城管理事務所の資料室に展示してあります。



3. 城の楽しみ方

各スポットを紹介します。

- ・ **菱の門：**

櫓門と呼ばれる形式の二の丸の入口を固めた門で、両柱の上の冠木に木彫りの菱の紋のあることから、この名前が付いています。門全体に安土桃山時代の様式を残しており、城内で最も大きな門です。



- ・ **西の丸：**

天守の西面が際立って見える庭園で、南門跡近くには出陣する武者を集め、隊を編成した武者だまりがあります。



- ・ **西の丸長局（百間廊下）：**

千姫に仕えた侍女たちが居たところで、千姫は毎朝この廊下から男山を拝んでいたと伝えられています。



- ・ **化粧櫓：**

西の丸長局より男山を拝んだ千姫が、この櫓を休息所としたので、この櫓を化粧の間、または化粧櫓と呼んでいました。



- ・ **乾小天守：**

三小天守の一つで天守台の西北隅（乾の方角）に位置しています。ほかに「東」「西」小天守があり、3つの小天守の中では一番大きく、外観3層・内部は地下1階・地上4階の造りになっています。



- ・ **大天守：**

天守台の東南隅に位置し、外観5層・内部は地下1階・地上6階の造りになっていて、最上階の大棟両端には阿吽（あうん）一対の大鯨瓦（しゃちがわら）を飾っています。外観は千鳥破風（ちどりはふ）・大千鳥破風・唐破風（からはふ）を組み合わせ、調和のとれた非常に美しいものになっています。



- **搦手口：**

搦手口（からめてぐち）。表の桜門に対して裏の喜齊門を指します。喜齊門からは、姫山の急な地形を利用して、紆余曲折の道を葛折（つづらおり）にし、その途中に門を造るなどし、守りやすくしてあります。



- **備前丸：**

本丸の一郭で、城主池田輝政が住んでいた所、客と会見する対面所などがありましたが、明治15年の火災で焼失してしまいました。



- **帯の櫓：**この櫓の石垣は城内で一番高く、その高さは垂直方向に約23mあり、その石垣の上に、物見櫓と数寄屋風建物を続けて一つにまとめられて造られています。櫓の内部には、湯気抜きの簀子（すのこ）などがあるので、茶の席に使われたのではないかとされています。



- **お菊井戸：**

播州皿屋敷のヒロインお菊が責め殺されて投げ込まれたと言われる井戸で、もとは釣瓶取（つるべとり）井戸と呼ばれていました。



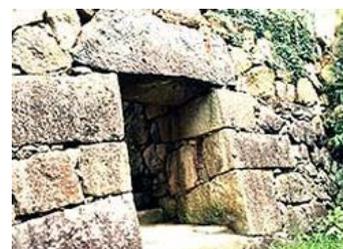
- **扇の勾配：**

姫路城はその400年の歴史の中で、戦にまみえることなく、近代の戦災に遭うこともなかった、たぐいまれな城です。その結果天守や櫓、門などの保存状態が非常によいうえ、ほかに類例のない遺構も多く、極めて貴重な文化遺産となっています。



- **るの門：**

孔門と呼ばれる形式の門。この門は天守への近道となる門で門の造られている石垣全体が城内側に若干振られるように造られています。そのため菱の門からは、この門は見えなくなっていて、ここを通る道は「間道」といわれています。



- **三国堀：**

菱の門内にある空堀、二の丸の本道と間道の要所をおさえる重要な位置にあります。



4. 破風(はふ)について

破風とは屋根に施された装飾です。破風は天守、櫓の「華」とも言えるでしょう。時には華麗に、時には力強さを表現してくれます。

<破風の種類>

◇ 入母屋破風：

入母屋造りの屋根に付く破風。特徴は、屋根の端と端を結ぶ線を底辺とした二等辺三角形をした破風です。望楼型天守の一層目に大入母屋が最も力強く目立つ入母屋破風ではないでしょうか？また、構造上天守の最上階には必ず付いています。入母屋破風のうち、二つ並べたものを比翼入母屋破風といいます。



◇ 千鳥破風：

形状は入母屋破風に似ていますが、入母屋破風と異なり、端が屋根の端と一致していない破風です。千鳥破風のうち、二つ並べたものを比翼千鳥破風といいます。



◇ 唐破風：曲線を用いた破風です。優美な曲線は魅力ですが、装飾性が高いため城郭にはあまりフィットしない破風ではないでしょうか？それ故に写真の姫路城など「使いこなせる」城郭は少ないと思います。



◇ 切妻破風：屋根の三角形の部分が突き出した形状となっている破風です。入母屋破風や千鳥破風と異なり屋根の端が途切れています。



◇ 大千鳥破風：

大千鳥破風は姫路城の大天守3階部分に設けられ、切妻屋根の妻面と見間違えるほど、屋根の幅いっぱいに設けられている破風屋根です。大天守の屋根の中でも最も大きく印象的なものになっています。



2015 年度第 5 回お国自慢発表会・懇親会

場 所：麻生市民交流館 やまゆり
日 時：平成 28 年 2 月 13 日(土)
15 時 00 分～19 時 00 分
参加人数 40 名、懇親会参加 35 名

第 3 部 お国自慢発表会 (15:00～17:20) 司会：宮本事務局長

5. 開会の辞

(以下、敬称略)

- ◇ 松本会長の挨拶：先日秦野市の県人会の集いに当会から5名の方が参加し、秦野市の木村会長から礼状を頂きました。

北海道の思い出では、当時、洞爺丸台風があった年、現地での仕事時に雪に閉ざされ宿舎へ帰るのに熊が出没すると聞き、歌を歌いながら宿舎に帰った思い出があります。



- ◇ 宮本事務局長：今日のイベントは、第1部が澤田さん・五十嵐さんの北海道道南地域のお国自慢、松岡さんの北海道の歌のお話です。第2部の懇親会は、「ふるさとの歌祭り」として、飲食しながら北海道の歌を合唱して頂きます。

ピアノ伴奏は米田恵子さんに、歌詞の投影は中込さんをお願いしました。

- ◇ 会場には北海道の雰囲気高めるためにと、五十嵐さんが八雲町発祥の木彫り熊を持参して飾って下さいました。お手伝いの旦那さん？お疲れ様でした。



6. 北海道ふるさと会：函館の話：澤田 哲郎さん

- ◇ ご本人は東京の出身ですが、奥様が函館出身で別荘が函館近郊にあるという事で北海道道南地域の事、函館の名所、歴史、うまいもの等と3月に開通の北海道新幹線の話をして頂きこました。

- ◇ ここでは、避暑に行く鹿部町の事、函館の観光とグルメの写真を掲載します。

- ◇ 鹿部町は函館市の北に隣接する町で、3つの漁港・間歇泉を初めとする多くの温泉・特産のタラコ・駒ヶ岳の眺めが素晴らしい町です。



◇ 函館の観光は、函館山からの夜景・五稜郭・元町の教会群・・・



◇ グルメは朝市・大門横丁でイカ刺し・海鮮丼・函館ラーメン



◇ お子様用にはラッキーピエロ。ご当地バーガー・ハセガワストアのやきとり弁当



7. 北海道ふるさと会：ふるさと八雲町：五十嵐 敏子さん（八雲町出身）

◇ 函館と札幌の中間の八雲町出身の五十嵐敏子さんより日本海と太平洋を有する欲張りで風光明媚な町の紹介がありました。また、かつてザ・タイガースのヒット曲、(花の首飾り)は八雲町の女子高生が原作を作った曲、みんなで音楽に合わせて花の首飾りを唄いました。



★澤田さん・五十嵐さんの道南地域の発表補足を、別途 14 ページに掲載します。



8. 日本民謡の粋・江差追分を語る：松岡 裕治さん（会員）

澤田さんと五十嵐さんが発表した道南地域の、渡島半島先端にある江差町に伝わる「江差追分節」と、日本民族のルーツともいえるアイヌ民族について、色々な音声を交えて説明して頂きました。いつも格調高いお話有難う御座います。

★説明の詳細は、別途 17 ページに掲載します。



9. 事務局から：

- ・ 交流会の今後の予定
- ・ 次回交流会は3月5日に三重県と伊勢志摩サミットの事
- ・ 伊勢志摩サミットの開催地と伊勢神宮参拝の旅の事

最後に、五十嵐さんと日下部さんのリードで、会歌「ふるさと」を皆さんで合唱しました。



第4部 懇親会・ふるさとの歌祭り（17：20～18：40）

今回も沢山の方々から、有難い差入れを頂きました。

日本酒（えぞの熊、松美西、伝心、上喜元）、ワイン2、カニせんべい、函館手作りイカの塩辛・函館タコわさび、鯛せんべい…澤田、宮本、田中(幹)、鈴木、横田、田中(元)、五十嵐、澤田、白石の皆さま
記録漏れがありましたらご容赦のほどを。



宮本さん司会、準備の幹さん 吉田さんの乾杯音頭で懇親会が始まった



五十嵐さん・澤田さん：お国自慢発表お疲れさま！



松岡さん：江差追分！



國武さん：お久しぶり



仙石さんもお久しぶり



★★これから「ふるさとの歌祭り」です。★★



前座・皮切り



真打ち！



みんなで歌いましょう



これは合成写真です



みんなで歌うのは いいですね



田中幹さんの音頭で「ラッセラー、ラッセラー、ラッセラッセ、ラッセラー と ヤッショーマカショでシャンシャンシャン」と楽しく締めました。

ピアノ伴奏をして頂いた米田恵子さんと、音響関係でお世話になった中込さんに感謝いたします。

北海道道南地域発表の補足

澤田 哲郎

北海道道南地域の紹介の補足を、参考までにまとめました。

1. 北海道の全体的なこと

◇ 地勢

- ・ 面積は 83,424km²…国土の約 22.1%
- ・ 都道府県の中では最も広く東京都の 38.1 倍山地は全体のほぼ半分を占る
- ・ 全国と比較すると山地や傾斜地が少なく、なだらかな土地が多い

◇ 人口 (2010 年国勢調査)

- ・ 1 位：東京都：1,316 万人～8 位：北海道：550 万 6,419 人（日本の総人口の約 4.3%）
- ・ 人口密度は 70 人/km²、全国(343 人/km²)の約 5 分の 1、都道府県別では最も低い

◇ 道内の都市人口

- ・ 北海道：552 万人
- ・ 1 位：札幌市(189)、2 位：旭川市(35)、3 位：函館市(28)

◇ 地域区分

- ・ 北海道は、道央、道北、道東、道南の 4 地域に区分される。
- ・ 道央と道南の区分けは幾つかある。天気予報の区分も多少異なる。



2. 北海道新幹線

- ◇ 新青森～新函館北斗(148.8 km)…2016 年 3 月 26 日 開業
 - ・ 奥津軽いまべつ駅、木古内駅の 2 駅が開設
 - ・ 終着駅は新函館北斗駅…北海道北斗市 (函館市中心から約 18 km)
- ◇ 新函館北斗～札幌(約 211 km)…2030 年 開通予定



3. 函館ゆかりの人物

◇ 北海道の歴史を刻んだ人物

- ・ 高田屋嘉兵衛：明和 6(1769)年～文政 10(1827)年、江戸時代後期の廻船業者
- ・ 相馬哲平：天保 4(1833)年～大正 10(1921)年、函館の発展に貢献した豪商
- ・ 今井籐七：嘉永 2(1850)年～大正 14(1925)年、百貨店丸井の創業者

◇ 学術・文芸

- ・ 岡本一平(漫画家。岡本太郎の父)、亀井勝一郎(文芸評論家)、川内康範(作家)、今日出海(作家)

◇ 音楽

- ・ GLAY(バンド)、中原理恵(歌手、女優)、森山加代子(歌手)

◇ 芸能

- ・ 叶和貴子(女優)、高峰秀子(女優)、納谷悟朗(俳優・声優)、益田喜頓(喜劇俳優)

◇ その他

- ・ 二上達也(元プロ将棋棋士)、あがた森魚(ミュージシャン)、石川啄木(歌人)、北島三郎(歌手、木古内町出身)、三橋美智也(歌手、北斗市出身)



4. 北海道の方言

- ・ 投げる ⇒ 捨てる
- ・ はく(手袋を) ⇒ (手袋を)はめる
- ・ あづましくない ⇒ 落ち着かない
- ・ いずい ⇒ 違和感がある
- ・ うるかす ⇒ 水を入れる
- ・ おっちゃんこ ⇒ 座ること、正座
- ・ あきあじ ⇒ 鮭(秋に味が良い魚)
- ・ おだつ ⇒ 調子にのる
- ・ かまかす ⇒ かき混ぜる
- ・ こわい ⇒ 疲れる
- ・ ちよす ⇒ いじる、さわる
- ・ なまら ⇒ すごく、沢山
- ・ はっちゃきこく ⇒ 張り切る

- 例:ゴミ投げといて～、雪投げしなきゃ
- 例:今日は しばれるから手袋はいて行きなよ
- 例:あづましくない所ですが、上がっていった
- 例:目がいずい、背中がいずい
- 例:お茶碗うるかしといて
- 例:ちゃんと おっちゃんこ しない
- 例:今年の秋味は、なまら うまいべ
- 例:おだつなよお
- 例:お風呂 かましといて
- 例:(坂を上った後で)あ～こわかった
- 例:机の上 ちよすなよ、髪の毛をちよすな!
- 例:今日は なまら暑い
- 例:あんまり はっちゃきこくな!

5. 八雲町のこと…五十嵐敏子さんの出身地

◇ 八雲町って

- ・ 八雲町は札幌と函館の間で、噴火湾の奥にある。
- ・ 日本で唯一、太平洋と日本海の二つの海に面した町
- ・ 太平洋から上がる月と日本海に沈む太陽を同時に見られる



◇ 八雲町の歴史

- ・ 明治 11 年尾張徳川藩徳川慶勝がユーラップ川の地で開拓を始めた
- ・ 開拓は日本海側は松前藩で、太平洋側は尾張徳川藩
- ・ 八雲の地名：熱田神宮に祭祀のスサノオノミコトが詠んだと言われる「八雲たつ 出雲八重垣、、、、」から引用。
- ・ 八雲神社は熱田神宮の全国唯一の分社



◇ 産業

- ・ 北海道酪農発祥の地、大正 9 年に徳川農場を中心に牛を飼った。
- ・ 乳牛牧舎でバターやチーズを製造・販売、乳牛の飼養が普及
- ・ バター飴の発祥の地：ピート糖とバターを加えてバター飴として販売
- ・ ペコちゃんは八雲の牧場の女の子がモデル



◇ 木彫り熊の発祥地

- ・ 徳川義親公がスイスから民芸品の熊を持帰り、農民の冬の副業として作らせた
- ・ 八雲の木彫り熊はサケを啜っていない。サケを啜えた熊はアイヌの民芸品
- ・ 木彫り作者…十倉金之、茂木多喜治、柴崎重行、加藤貞夫、上村信光、引間二郎



◇ ザ・タイガース「花の首飾り」の原作詞の地

- ・ 昭和 42 年(1967)月刊誌「明星」誌上で歌詞の一般公募
- ・ 八雲の女学生が応募、これが「花の首飾り」の詞



「日本民謡の粋・江差追分を語る」

松岡 暁洲

日本列島の頭上に燦然と輝くティアラのような北海道。その道南地域のお国自慢、沢田さん五十嵐さん、大変にありがとうございました。

私からは渡島半島先端にある江差町に伝わる「江差追分節」と、日本民族のルーツともいえるアイヌ民族について、少々お話をさせていただきたいと存じます。

「一に追分、二に博多」といわれ、日本を代表する民謡は北海道の「江差追分」と九州福岡県の「博多節」でございます。

「江差追分」は品格、曲調、難易度、人気、そのいずれをとっても日本民謡の王座に君臨するにふさわしい曲でございます。

北海道新幹線が停まる上磯郡木古内町生まれの平野源三郎(1869-1918)、この人が唄の曲節を確立して、以後の隆盛の基礎を築きました。そのあと、茅部郡砂原に生まれた三浦為七郎(1884-1950)の努力によって、江差の追分は日本を代表する民謡「江差追分」になるのでございます。

では名人・三浦為七郎の貴重な音源を聴いてみましょう。

江差追分は前唄、本唄、後唄の三部構成で、本唄は七節を七息で約2分25秒前後に唄いあげるのが原則でございます。本唄の後か曲のあとに尺八と三味線の送りが入ります。

檜山郡江差町は、江戸時代中期から北前船の終着湊、松前藩の商業都市、鯨漁の根拠地として栄え、“江差の五月は江戸にもない”とその賑わいぶりを謳われました。

本州からは、鯨成り金やヤン衆を目当てに、三味線を抱えた瞽女さんや、唄のうまい座頭さんたちが多く渡ってまいります(アイヌ語で内地人のことヤウン衆と呼びます)。



漁師たちの酒の席では、内地の流行歌が盛んに唄われました。そのなかに、信州追分宿の馬子唄と、九州長崎の平戸沖で唄われていた鯨漁の船漕ぎ唄、“エンヤラヤ”が組み合わさった唄がありました。

松前節と呼ばれていたこの唄が洗練されて、江差の追分節と呼ばれるようになるのでございます。

一説にモンゴル民謡が基礎になっているという学者もおります。参考までにモンゴルの民族音楽を聴いてみましょう。いかがでしょうか。

この学者さんの説には、音楽とは人間の普遍的な情感から生み出された命の調べであり、音楽は人類の共通語であることに対する無理解と無認識があるように感じます。

ところで、北九州小倉出身の作家・岩下俊作に「富島松五郎伝」があります。昭和18(1943)年に作られた稲垣浩監督、坂東妻三郎主演の映画や、村田英雄の「無法松の一生」で有名ですね。子供の敏雄役は幼い頃の長門裕之です。リメイク版では三船敏郎が主演でした。



映画の中で、主人公の松五郎が吉岡大尉のまえで「追分」を唄っております。ご記憶ございますか？

船人が唄う追分は各地の港に置き土産とされ、九州小倉の松五郎も追分が得意であったのでございます。北海道の「江差追分」の古い形です。

なかにし礼の直木賞受賞作品「長崎ぶらぶら節」（平成 11(1999)年)のヒロイン、丸山芸者の愛八(1874-1933)も追分を得意としておりました。映画では吉永小百合が愛八です。可愛かった小百合ちゃんも、今年の3月で71歳になります。



愛八は長崎の本石灰町に住むアイヌの女性から「追分」を習い、後にこの唄を基にして「長崎浜節」の節作りをしました。愛八が弾き語り唄う追分の音源がありますので、お聴きいただきましょう。

お座敷唄の余情を漂わせて、七七七五、二六文字の本唄を七声七節で味わい深く唄っておりますね。

なかにし礼といえば、北原ミレイの「石狩挽歌」を作詞しています。本日は演歌好きのカラオケファンの方がたくさんおられますので聴いてみましょう。北原ミレイさん、個性的な顔立ちで歌唱力がありますね。もひとつおまけで、井沢八郎の「北海の満月」を聴きましょう。

曲の中にニシバ、アイヌ絣、メノコ、イヨマンテ、コタンというアイヌの言葉が出てまいりました。

「アイヌ」とはアイヌ語で「人間」という意味です。

今から1万数千年前、日本列島には縄文文化が栄えていました。

縄文時代の人々は、主に狩猟採集生活を営み、多くの遺跡や縄文土器を日本各地に残しております。川崎市では多摩区、高津区に遺跡が残っております。

日本の国を作ったのは弥生人ですが、弥生人は南方や大陸から渡来した稲作農耕民と土着の縄文人との混血です。弥生人はまず西日本を占領します。東日本には東夷と呼ばれる縄文人が残っていました。

弥生人は縄文人を追いつめていき、縄文人は北海道の一部に残ります。それがアイヌの人達です。アイヌの人々は稲作農業を受け入れず、狩猟採集の生活を続けていました。



アイヌ民族は、自然を神と崇め、自然界と共存、共生して慎ましく生きていました。アイヌの神は山であり、川であり、樹木であり、動物であり、自然こそが神であったのでございます。この日本の基層文化である縄文文化が、6世紀に輸入された仏教に大きな影響を与えます。

その結果「草木国土悉有仏性」「山川草木悉皆成仏」をテクニカル・タームとする天台本覚思想という日本独特の思想を生み出すのでございます。法然、親鸞、道元、日蓮などの仏教者は、天台本覚思想をその教えの基礎としております。

本覚思想とは、昆虫や動物はもとより、植物や山や川、国土も命を持っているという思想であり、まさに縄文文化の思想そのものと言えるのでございます。それをほぼそのまま伝えているのがアイヌ文化なのでございます。

現在、世界中に広がる自然破壊の現状に対して、自然保護の重要性が叫ばれております。アイヌ語の言葉の中に自然保護という言葉はありません。自然は常に循環しており、生きもの同士が自然の摂理の中で、それぞれの命を全うするものであると捉えるアイヌの人々の考え方。それが今、世界から求められているのでございます。

明治 32(1899)年にアイヌの人々に対して施行された土人保護法という悪法が、なんと平成 9(1997)年まで存在していました。

この法律は、貧困にあえぐアイヌ民族の保護を名目としていますが、実際にはアイヌへの差別と蔑視、財産の収奪、アイヌ民族への侵略排除政策推進のための法的根拠として活用されてきたのでございます。

この法には、アイヌ固有の習慣・風習の禁止、日本語使用の義務、日本風の名前に改めて戸籍に編入するといった強制も含まれていました。戦前、日本政府が沖縄の人々に対しても同様の政策を押し付けた事実がありましたね。

昭和 61(1986)年、当時の中曽根首相は、日本は単一民族国家であるという極めて愚かで無知な発言を致しました。

日本は決して単一民族国家ではありません。事実を知らないというのは恥であり、知らないままで差別と蔑視に加担するのは大きな罪でしょう。

東アジアの平和と安定に不可欠な日韓の関係は、いまだにぎくしゃくしております。韓国の人々に対する日本人の態度の中に、差別と蔑視のまなざしが無いと言い切れるでしょうか。

弥生人には、他を差別し、蔑視して、われ尊しとする DNA があるのではないか。自戒を込めて、そのように思っております。

アイヌは私どもの祖先であり、ルーツでございます。

祖先が犯した過ちを正す行為は、決して恥ずべき行為ではありません。それは差別のない共生と平等社会に向けての出発点であり、日本が国際社会で信頼され、生きていくための基本であるといえましょう。

アイヌの言葉に「ウコチャランケ」という言葉があります。ウ=お互い、コ=目的、チャ=言葉、ランケ=降ろす。

お互いに持っている言葉をその場におろし、全て話し合いで解決することを言います。

今私たちに求められていることは、まさにアイヌのウコチャランケの精神ではないでしょうか。

日韓、日中、日米、日露の関係のみならず、世界の平和建設への第一歩こそウコチャランケ。一人ひとりが正しい歴史を学び直し、相互理解、相互認識に基づいて忍耐強い対話を積み重ねていくこと。それが最も大切なことだと思います。

先日、ハワイに在住の先住民族の方が、人生を変える三つの言葉を教えてくれました。

それは「ありがとう」、感謝です。「ごめんなさい」、おわびと反省です。「愛しています」、包み込みです。この三つを心に語りかけ、無知を改め、正しい行動を起こす勇気をもって、着実にして地道な前進をしてきたいと思っております。

なお、アイヌの熊送りの儀式であるイオマンテの紹介は、次の機会に譲りたいと思います。

ながらくのご清聴、ありがとうございました。(了)

北陸新幹線で加賀百万石の古都の歴史・伝統を

鈴木 毅

北陸新幹線開業で金沢まで2時間半と便利になりました。加賀百万石の歴史、伝統、文化、グルメ等味わい尽くしましょう。

今回は加賀百万石の加賀藩前田家を中心にお話しします。



北陸新幹線



前田家家紋



雪つり兼六園(5代綱紀)

1. 概要

加賀国石川郡にある金沢城に居城。藩主の前田氏は外様大名ではあるが、徳川将軍家との姻戚関係が強く準親藩の地位が与えられ、松平姓と葵紋が下賜された。

大名中最大の102万5千石を領し、同侯席も徳川御三家や越前松平家などが詰める大廊下である。他の外様大名は大広間であり、御三家に準ずる待遇で、一国一城令が布告された後に小松城の再築が許されて一国二城となるなど、他の大名とは別格の扱い。

2. 歴史

織田信長によって能登一国を与えられていた藩祖前田利家が、天正11(1583)年の賤ヶ岳の戦いの後、豊臣秀吉に降って加賀2郡、さらに天正13(1585)年には佐々成政と戦った功績によって、嫡子利長に越中西三郡が与えられ、3国にまたがり100万石を領する前田家領の原型が形成された。



前田利家

慶長5(1600)年関ヶ原の戦いに際して東軍に組し、三ヶ国120万石に及ぶ所領を獲得した。のちに第三代利常が隠居するとき、次男に越中富山藩10万石、三男に加賀大聖寺藩10万石をそれぞれ分与し102万5千石となる。

3. 前田家歴代藩主

藩祖、1代利家、2代利長、3代利常、4代光高。5代綱紀、6代吉徳。7代宗辰、8代重熙、9代重靖、10代重教、11代治脩、12代斎広、13代斎泰、14代慶寧。

正室松姫に先立たれた6代藩主吉徳は、まだ若く精力絶倫タイプで9人の側室を置き、7代藩主から10代藩主までを藩主にした。

4. 前田家藩主の正室

利家の正室お松（芳春院）は3代利常の時、徳川家の人質として江戸に住み加賀藩を守る。

2代利長の正室は織田信長の娘永子

3代利常の正室は珠子（天徳院）で徳川家光の姉

4代光高の正室は家光の娘阿智子

5代綱紀の正室は会津保科家の藩主正之の娘摩須子

3代利常の娘富は天皇家八条宮智忠親王に嫁いでいる。



お松(芳春院)



珠姫の寺 天徳院

5. 加賀藩の職制

加賀藩の最高の家格は「年寄」で加賀八家と呼ばれ、藩の最高決定機関として合議制で藩政を運営した。

6. 加賀八家

本多家(5万石)、長家(3万3千石)、横山家(3万石)、前田土佐守家(1万1千石)、前田対馬守家(1万8千5百石)、奥村家(1万7千石)、奥村家支流(1万2千石)、村井家(1万6千5百石)で1万石以上の知行を持っています。

7. 軍政面、行政面での役職

人持7組の組頭（軍団長）や金沢城代、小松城代を務めます。行政面では幕府との交渉や、藩内の人事、財政の運営、藩校の運営など。

月番、加判の職があり、月番とは月ごとに交代で藩政を担当すること、加判は藩政の審議に参加して、月番が起草した書類に署名することです。

8. 人持

上士身分に相当し68家あり、人持七手と言われ7組で組織されました。

石高は1千石から1万4千石の家がありました。

人持組から家老、若年寄が任命され、家老は年寄を補佐する。

寺社奉行、御算用場奉行、公事場奉行、近習御用、定火消役、奏者番などを務める。

9. 平士

中士身分に相当し、80石から2千4百石の約1400家あり、御馬廻、定番御馬廻、組外、小將の組があり、各組には組頭と番頭がいます。

他に新番組として人持、平士の子弟で武芸に優秀な者が所属し、殿様の護衛役を務める。

10. その他の家臣

平士並（御医者、御料理頭、御坊主頭）、与力約 300 家 60 石～350 石で、奉行の補佐、御歩（おかち）約 300 家あり殿様の行列の護衛や、雑用を務める。

御歩並約 400 家、軽輩として足軽、中間、小者で足軽でも加賀藩は敷地 59 坪の庭付き一戸建を与えられた。



武家屋敷

11. 俸禄(給料)

身分の高い藩士は藩から領地を与えられる知行とり、身分の低い藩士は切米といって、藩の米蔵から米を数回に分けて支給されました。加賀藩は春と年末の 2 回。

12. 知行取りと切米

知行取り：例えば、200 石の知行取りというのは、米 200 石が生産される領地を与えられる。地主や領主ではなく、生産者からの年貢が貰えるというだけです。

当然ながら 200 石全てが与えられる訳ではなく、仮に四公六民とすれば 40%の玄米 80 石が貰え、あとの 120 石は領民の取り分となる。年貢率の決定や年貢の収納などの行政は藩が全て行い、藩士は自分の取り分を受け取るだけ。この代行作業を行うのが加賀藩の事務機構である御算用場でした。

切米：切米取り 40 俵といえは玄米 40 俵を春と年末の 2 回に分けて支給される。現代では米 1 俵は 4 斗（0.4 石）ですが、加賀藩の 1 俵は 5 斗（0.5 石）も入っていたそうです。

だとすると加賀藩の切米 40 俵は 20 石に相当します。米の価格は時代によって変動しますが、江戸中期の 1 石＝金 1 両とすると、200 石の知行取りは、食い扶持 10 石を残すと 70 両の年収となります。

13. 野田山・加賀藩主前田家墓所

野田山墓地は、金沢城から直線距離にして南西約 3.5 キロ離れた所に、広がる一大霊園地です。野田山は標高約 175m を測り、墓地の総面積は 43 万平方 m で、加賀藩墓域内には 80 基の墓が建てられています。兼六園の約 4 倍の広さがあります。

藩祖前田利家の兄利久が、この地の山頂近くに葬られたのが、野田山墓地の始まり。利家以降、歴代藩主とその正室が野田山に葬られました。

前田家墓所の周囲には家臣の墓が造られ、のちには町人の墓も立ち並び、現在の野田山墓地となりました。現在では加賀藩主前田家墓所は成巽閣が管理しています。

野田山墓地の最も標高の高い一角に、加賀藩主前田家の歴代当主を初めその正室、子女など近親者たちが眠っています。

前田家の墓はいずれも土を高く盛り上げた土饅頭形式で、藩主と正室の墓は四角形の土壇を階段状に重ねた外観。墓の周囲には溝を廻らせ、大きさも利家墓で一辺約 19 m、他の藩主墓でも約 16m ある。



前田利家のお墓

14. 江戸の加賀屋敷

大名たちは参勤交代制の確立に伴って、幕府から江戸市中に土地を拝領し、大名屋敷を造営するようになりました。

現在の東大本郷キャンパスの敷地は、かつて加賀藩前田家の上屋敷でした。東大の赤門が前田家上屋敷の正門そのものであった。文政10(1827)年、加賀藩13代藩主前田斎泰は、11代将軍徳川家斉の娘溶姫を正室に迎えるのに当たり、慣例に従い朱塗りの門を創建した。加賀前田家の本郷上屋敷は約10万4千坪(東京ドーム7.3個分)もあった。



東大赤門

板橋区にある加賀公園は、その昔加賀藩前田家下屋敷があった。敷地は22万坪、明治神宮と同じ宏大な敷地でした。この板橋の下屋敷はなんと東京ドームの15倍。

駒場にも別邸があり、それが東大の駒場キャンパスとなった。

加賀藩と東大は、よっぽど結びつきが深いのですね。

今回は金沢の伝統、文化、加賀料理、お菓子、珍味、日本酒、金沢の歌等を話します。

神奈川県秘湯 中川温泉探訪記

宮本 直紀

厳しい寒さが続いていた1月25日・26日に神奈川県で唯一の「日本秘湯を守る会」指定の宿(中川温泉・蒼の山荘)を、秘湯めぐりをしているメンバー6名(内ふるさと交流会員は3名)で訪れた。

丹沢湖の近くにあり、野鳥が多く飛んでくる、ひっそりとした宿であった。忙しい日々のなか、こんな時間が明日への英気を与えてくれる。



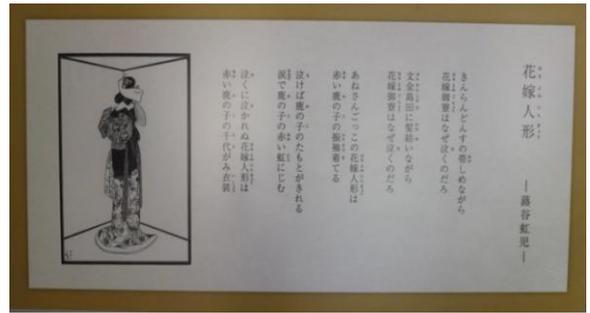
玄関両側の提灯にご注目！！

これまで30数箇所の秘湯を訪れたが、今回は初めて尽くしのことが多かった。

従業員が息子さんと、両親の3人しかいなかったり、食事の時間が予定どおりにならなかったり、食事をする広間の暖房が故障していて、小さな電気ストーブ一つだけ。厳寒のなか寒い寒い声。新聞は無し、旅館のパフレットは作っていない。宿泊客は我々の他に、もう一組のご夫婦のみ。これこそが本当の秘湯か？

しかし温泉は源泉掛け流しでpH10以上のアルカリ泉で快適。朝のコーヒーは無料。

山北村に疎開したことがある挿絵画家「落谷虹児」の絵や作品（花嫁人形＝きんらん緞子の帯締めながら・・・）がロビーや廊下に展示され、竹久夢二の影響を受け大正ロマンを感じる。なお、故郷の新潟県新発田市には「落谷虹児記念館」が建てられており、同市では落谷の「花嫁人形」を歌い継ごうと、毎年「全国『花嫁人形』合唱コンクール」が行われているとのこと。



花嫁人形(落谷虹児 作詞)

また早朝6時から、希望者には双眼鏡が用意され、バードウォッチングの案内をして頂ける。【やませみ・ヤマガラ・カケス等】が見られた。広い庭には猫等に襲われないように工夫した餌台に、長い竿でひまわりの種を置くなど自然志向のご主人のおもてなしの気持ちは十分に感じとられた。



餌場のヤマガラ

なかでも朝食後のロビーから、沢山の野鳥が目の前で餌を食べている光景が見られ、深く印象に残った。また数十足の長靴がロビーにあるので理由を聞いたら、夏には蛍（源氏と平家両方）が見られるので、そのためとか。

新百合ヶ丘をユックリ出発しても、新松田からバスに乗り換えて約2時間で到着します。新松田には中沢酒造（地元の銘酒松美酉などの試飲可）もあります。一度訪ねてみては如何でしょうか。

隠岐流人秘帳（その3）～^{みづらまる}柿本躬都良磨～

松本 良樹

隠岐が流刑地と決められた飛鳥、奈良、平安朝の昔から、流刑廃止となった明治初年までの間の出船風景は、現代と大分違うのだが、ともかく出船は島にある流人達の心を、しっかりと、とらえて離さなかったようである。百人一首で誰でも知っている

わたのはら 八十島かけて こぎ出ぬと ひとにはつげよ あまの釣舟

この歌も、今から1100年ほど前の隠岐の流人、遣唐使小野篁の船出の感懐だと伝えられている。隠岐では、このように千幾百年の間、都の貴人から市井のちまたで簡単に召し捕られ、島の各所に配流された名もない軽輩者にいたるまで、数多くの流人達が出船に、いくたびやるせない血の涙を流した事かしのれない。島なるが故に背負わされた宿命の流刑地隠岐の島である。

この物語は今から 1300 年の昔、遠い飛鳥時代の出来事である。当時都には韓国の百済から、はるばる日本に渡って来た道澄僧都（トウチヨリ）という名僧がいた。

師は日本人に大陸文化を伝え、人々の尊敬を一身に集めていた。その頃は日韓の交易も盛んだったし韓国人で日本に帰化する者も多かった。道澄僧都もまた同系民族の善導には特に心をくわいて当たり、今や彼の功績は都の内外でも高く評価されつつあった。

やがて世は移り、大友皇子（弘文天皇）から大海人皇子（天武天皇）の御代となった。日頃から道澄を厚く信頼していた天武天皇は、僧都を宮中に召し、親王、諸王に対し金光明経の講義をさせた。

この聴講生の中に『大津の皇子』という人格才智ともに優れた皇子があったほか、都で有名な歌人、柿本人麿朝臣の子息で『躬都良麿』という立派な若者がいた。

彼は父に漢学を学び、唐の高僧、道照からは仏典を修め、その母からは手塩にかけて懇ろな養育を受けただけあって、躬都良麿は容姿端正『都の神童』と呼ばれるに相応しい美少年としてすくすくと育った。天皇も躬都良麿の才能を深く愛し、大津の皇子の従者として、特別に宮中講義をも聴講させていた。この若者は数か月で早くも教義を修得する素晴らしい秀才ぶりを発揮した。道澄僧都も驚き、かつ大いに喜んで躬都良麿を指導し引き立てたのである。

日本と韓国の交流が、いよいよ盛んとなるにつれて韓国からの帰化人の数も次第に増えた。同時に、韓国からの渡航途中で遭難する者の数も多くなり、ついには一年で数千人の遭難者が出るという騒ぎまで起こった。そうした遭難者たちで幸運にも命拾いした人の大半は隠岐の島に漂着したのである。このような便りが、しきりに都にも届いた（海流と季節風の関係から今でも韓国からの漂着船が多い）が、漂着者達の孤島での生活は、非常にみじめなものであるという知らせも多く、道澄僧都はこれを深く心配し、その対策にもなるとして隠岐島に寺堂、宿坊の開設を思い立ったのである。

ある日、意を決した道澄僧都は天皇に隠岐島に渡り日韓の海上安全祈願と漂着者達の救済とを願い出たのである。天皇は道澄が都を去ることを非常に惜しまれたが、その熱意に動かされ、かつて百済から慧聰僧都（ケイワ）によってもたらされたという大覚像に多額の金品を添えて、これを許したのである。喜び勇んだ道澄僧都は、これを携え隠岐島の島後に渡った。彼はまず五箇村に横尾山寺を創建、田畑広く拓いて寺領を定め、仏教の講和、住民の善導、病人の看護、旅客宿泊の接待、寺浜の施設と造船、本土との航海業などに日夜懸命の努力を続けた。かくて、道澄の徳を慕い集まる者も日と共に増えて行った。

丁度この頃、都では天武天皇が亡くなられた。道澄はこれを聞き、驚き大いに嘆きながらもせめてその葬祭に合おうとして急いで都に上ったのである。ところが都では大変な騒動が持ち上がっていた。それは皇太子である草壁皇子がご病弱のため即位できないので、次の天皇に当然大津皇子になるだろうとの噂だった。

だが、大津皇子は阿閉皇后（後の持統天皇）の実子でないため皇后はこれを嫌い『大津皇子に謀反の企てあり』として皇子は死刑。歴史年表によると『大津皇子 24 才、朱鳥元年 10 月謀反のかどで死を賜う』とある。そして皇子の無二の従者であった柿本躬都良麿は、謀議に参加したとして隠岐に遠流。その父、柿本人麿も子の罪によって土佐に配流する。とのきつい処分を行い、阿閉皇后自ら即位して 41 代、持統天皇となった。道澄

僧都は、ことのほか嘆いたが、なすすべもなく、せめて躬都良麿の隠岐での配所を横尾山寺にしたいと嘆願やと女帝の許しを得た。一方、躬都良麿の母は子の正しきを信じて疑わず、世のはかなさを思い日々消え入るように嘆き悲しだが今はせん方もなく墨染めの衣に久比岐、双奈加波の高貴な薬など持たせて言った。『母はひたすら仏道に専念して、麿に赦免の日の来ることだけを祈っています。貴方も母の気持ちを汲み必ず自愛しておくれ』さきに背の君を土佐に、いままた一人息子を隠岐に送らんとし、とどめえぬ涙にくれながら長の別れを惜しんだのである。躬都良麿はかくて、雪の幾山河を超え荒れ狂う冬の海を渡って隠岐の配所に入った。

島では読経のほかは何一つ心の慰めも無く朝には土佐に配流された父を案じ、夕べには遠い都の慈母を偲び涙の月日を送っていた。かくして冬去り、春至り、桃の花咲く頃となった。そうしたある日のこと、本坊での道澄僧都の読経に和して聞きなれぬ若い女の涼しげなる声が薫風にのって聞こえてきた。不審に思ううちに、やがてその声もぼったりと止み頭巾で顔を覆い供人に付き添われた一人の女性が立ち去るのが見受けられた。

絶海の孤島、この山寺に見受けるには余りにも妖艶な姫の後姿だった。躬都良麿の心はあやしく揺れ動いたが、なすすべもない。また僧都に姫のことなど聞くわけにもいかず、空しく日が流れた。しかし姫の寺参りは続き時にはその供人をして“藤つつじ”“白百合”などの草花が届けられた。が、そのたびに必ず父からとの伝言があった。

この頃、五箇村、美々津里に比等那公（ヒナ）という多才で徳高い豪族があった。彼は躬都良麿の憂愁に同情し、道澄僧都と相談し村人を集め、躬都良麿赦免の祈祷会を行った。

その後で、にぎやかな酒宴を張り歌垣の舞なども行って彼を慰めた。この時、公は初めて自分の息女だといって比等那姫を躬都良麿に紹介し姫に和歌と仏典の教授を依頼したのである。これがきっかけで、以後、躬都良麿もたびたび下山、比等那姫を訪ねるようになり、時には二人で山に遊び、海にあさって和歌を交わすなど次第に二人の中も深まった。

晩秋のある日、姫が遠くの旅に出て数日間帰らぬことがあった。躬都良麿は一人さびしく重栖湾（ヘス）に遊び、姫を慕ってこんな和歌を残した。

つま恋いて おもすの浜に わがおれば 泣く白しまの 波の音と聞ゆ
そして比等那姫から躬都良麿への送り歌

岩立の 甲羅尾の月も 更けにけり ねなましものを 松風の音
いはましの 契りを潮に 泣く千鳥 声はかなしも 重栖白浜
がある。

配流されて2年目の冬、躬都良麿はふとした風邪がもとで病の床につくことになったが、山寺では何かと便が悪いと比等那姫の館で病を養うことになった。姫の心を込めた介抱もあまり効果がなく、また道澄僧都も山を下り一心に祈祷したが病は一進一退の日が続いた。ある日、自分の死期を悟った躬都良麿は、枕頭の人々に手厚い看病を受けたことを深く謝した。そして雨戸を開かせて東の空に向かい両手を合わせたか、涙は尽きようもない。姫が白布で静かに涙をふこうとしたとき彼は姫に向かい『長い間のそなたの心尽くし彼の地（死後の意味）でも決して忘れない。常に正法順応して幾久しく幸せであってくれ』と言った。姫はいたたまれず隣室にかけ込み、しばらくは顔もあげ得ない有様である。その時、一連の雁の群れが、南東の空に向かうのを見て躬都良麿は、われなき後、大和の母君に渡してくれとあって、

あふことも 身はいたつきに 沖つ島 さらばと告げよ わたる雁が音
と詠んだ。そのあと姫の心を込めた看護も、また都を発つ時、母がくれた霊薬も効かなく、彼は23才の短い生涯を、この島で終えたのである。最愛の人に先立たれた姫の悲しみはたとえようもなく、姫はすぐ黒髪を断ち、これを躬都良麿の遺骸に添えて火葬にした。

島の春は遅い、それからやっと海が幾分なぎはじめたある日、姫は道澄僧都に伴われて隠岐の港を発ち、若狭の国を経て飛鳥の都にのぼったのである。遺骨を抱いて柿本の邸を訪れた比等那姫は、初めて会う躬都良麿の母膝にすがり、遺骨と共に終日泣き明かしたとか。

その時躬都良麿の母は比等那姫に対し、躬都良麿の身代わりに是非都にとどまってくれと再三切望した。だが、比等那にも国に父母があることを告げ、別れを惜しみながら道澄に伴われて若狭の國小浜の里まで帰った。しかし、このことが都での評判となり姫の徳を慕い、教えを乞うものが続出。このため僧都は姫をいったん西津の尼寺に残し隠岐に帰ったのである。姫はこの地で亡き人の追善供養のためにと、数多くの尼僧を養成して各地に送り、世のため、人のため、尽くさせた。

その後、姫は故郷の島に帰る機会を失って、彼の地でその一生を終えたという。数多くの尼を養成した姫を、世に八百比丘尼（ヤビクニ）といい、今もその名を残している。

隠岐西郷町には、その昔、比等那姫（八百比丘尼）が躬都良麿と一日、山に遊び、植えたと伝えられる周囲11m 樹齢千数百年の杉の大木が天然記念物として残っている。 と、ここまでは近藤泰成氏の隠岐流人秘帳より転載致しました。



西郷町に残る八百杉

さて、隠岐に流された大物流人第一号は柿本躬都良麿だとされています。この躬都良麿より父親の柿本人麻呂の方が有名で、皆さんも良くご存知だと思います。

後世、山部赤人と共に歌聖と呼ばれ称えられていると共に三十六歌仙の一人で、平安時代からは『人丸』と表記されることが多い方です。

彼は『万葉集』第一の歌人といわれ、長歌19首、短歌75首が掲載されており、その歌風は枕詞、序詞、押韻などを駆使して格調の高い歌風であり、百人一首にも採用されており

あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の ながながし夜を ひとりかも寝む



柿本人麿

がある。人麻呂の終焉の地は島根県益田市（石見国）とされているが、諸説があつてどれが本当か不明だ。一つには益田市の沖合にあつた鴨島伝説として伝えられるもの（中世の万寿地震と津波により鴨島が水没）二つには石見に帰る際、島根県安来市より船を出したが近くの仏島で座礁し亡くなったという伝承がある。この島は現在の亀島と言われる小島であるという説や、河砂の堆積により消滅し日立金属安来工場の敷地内にあるとされ正確な位置は不明になっています。つづく